

短歌 (有明短歌会)

蜜蜂の舞ふ真白なるそば畑に直なほ書きの人参青さ  
 戦友はなべて逝きたりシベリアの手記を残して悲劇伝へむ  
 今年また勤労の日を迎ふるに国旗を掲ぐ卒寿に感謝  
 半生を独りに馴れて白き髪そぞろ歩きに長月の月  
 短歌会の維持存続を願うわれ列席で口説き望み叶える  
 あいさつは日本一の市役所を目指していますと窓口にあり  
 秋風に色添え競うヒガン花誘う季節の義母植えし種子  
 暮れなずむ頃に目覚めて白肌の色香ただよう夕顔の花  
 鎮かなる甲突河岸泥だまり朝日をうけて望潮いる  
 霧島の昇る湯けむり遠き日を想い出させる山の温泉  
 秋桜の満開近し霜月の旗日に歌会開かれにけり  
 文化祭玄人なみの展示品目を見はりつつ心躍らす  
 垣根よりパッと飛び立つ雀たち吾も飛びたし大空高く

畑山みつき 福元 忍  
 徳田 将人 矢野 むつ  
 野口 嵐 澤津川頼子  
 萩 幸子 木下マキ子  
 大原 繁 水上カズエ  
 池迫 茂 石峰カズ子  
 宮脇 ナナ

俳句 (はつはな俳句会)

白足袋の揃う踊りの秋祭り  
 滝もみじ彩あざやかに雨あがる  
 紅葉のひとつやま消えて道の出来  
 振り向けばいつも母いる秋桜  
 一すじの糸に枯葉の操られ  
 熱帯に呂律あやしき者同士  
 吟詠の舞台は広し文化の日  
 ありがとう今日も働き天高し  
 短日の消してまた書く助詞ひとつ

城之園よしえ 熊谷 玉乃  
 横山 良子 吉村 公香  
 川畑 美行 本村 湧水  
 川畑 充子 春日 ふく  
 本村多可子

文芸

Japanese Poem of 31syllables  
 \*Haiku Poem\*Comic Haiku\*

ジーンズの馴染む暮しや秋深む  
 夫々に愁ひのありて秋の駅  
 帰り道目にやさしきは稲の原  
 握りしめたものみな零れゆく老いの冬  
 閉校の遊動円木花は葉に  
 多感とはさかんになること木の実降る  
 案山子立つ稔る稲穂は汗の花  
 海の道世界を繋ぐ志布志港  
 落陽の美しすぎる荒野かな  
 さざんかの花咲き初めて季節を知る  
 つわぶきの咲いて小島は冬に入る

坪田 秀邑 永山 又生  
 吉田 十二 暉峻 康瑞  
 山本せつ子 肥後 洋子  
 岩根 長初 吉村 公平  
 岩元 孝雄 谷口さえ子  
 藤後むつ子

薩摩郷句 (志布志薩摩郷句会)

酔くる爺が昔しゆ語れば 一晚中  
 広か空眺めつ 悩む吹つ 飛べつ  
 夢載せつ はやぶさが 出発た 空ん旅  
 長げ 説教 欠伸ば ころいと 軒なつ  
 自惚れが 一人暮しを 支えちよつ  
 山登い 背負た 水筒い 救われつ  
 短け足 真実ち 恥な 試着室  
 思たごつ 語いきい 友達しや 多か居らじ

福山 吉連 木藤 富美  
 満留 ぐみ 新地 十意  
 樋渡草団子 竹之内零余子  
 伊地知 孝 野村 三味

～『志』・季・折・々～

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真でご紹介します。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：干支の石像と冬の景色】